抜かずに放そう！

遊休桑園を和牛の放牧地に

大島健司

背伸びして頭が届く範囲の桑葉は食べてしまう

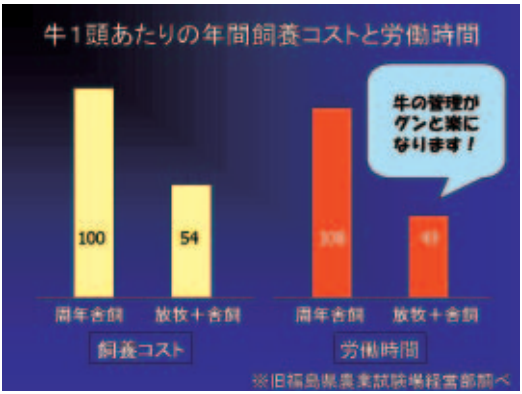
抜根しなくとも数年で枯れる

福島県本宮市の白沢地域（旧白沢村）は阿武隈山麓にあり、以前は養蚕が盛んな地域でした。しかし、生糸の国内需要減少、輸入の増加によりマユ価格が安くなるとともに養蚕を営む農家は減少し、桑園はそのまま遊休化していきました。桑園は桑の木の処理が難し

和牛放牧研究会のみなさん

く、傾斜地も多いことから、他作物への転換も進みませんでした。平成二年頃から遊休桑園を造成して牛を放牧する農家が現れましたが、抜根しなければならないことから作業に重機が必要であり、大変な作業でした。

そのような中、平成九年に白沢地域の和牛繁殖農家・大内武幸さんは田村市（旧船引町）で桑の根を抜かずに牛が放牧されている桑園を視察し、「この方法であればできる」と考えました。福島県畜産試験場（現福島県農業総合センター畜産研究所）では白沢地域を現地試験地とし、本格的に遊休桑園での放牧に取り組むことになりました。そして平成十五年には抜根せずに放牧地が造成できる方法が確立されました。



周年舎飼を100とした場合の比較

この造成法は抜根しないので労働・費用の面で楽です。さらに抜根しなくとも、桑の株は数年で枯れてしまいます。その根は、傾斜がある桑園で牧草が定着するまでの間、土留めの役割を果たします。放牧で牛のエサ代が節約でき、管理が楽になり、牛が健康になるほか、難しい急傾斜の桑園も利用でき、景観がよくなります。試験では飼養管理費用や労働時間が半分程度まで下がりました。

こうして畜産経営上メリットのある放牧を遊休桑園で、以前よりも簡単に行なえるようになりました。

遊休桑園を放牧地化する手順

放牧予定地の桑を刈り払う　その後の搬出作業も考慮して、葉のない時期（十二～三月頃）が効率的です。葉がある時期は少しずつ切り倒し、その葉を牛に食べさせます。当初は牛の蹄を傷めないように地上より三〇cmほど残していましたが「搬出作業の障害になる」という指摘がありました。そこで、地面スレスレで刈ることにしたところ、特に問題はありませんでした。牧草の生育に必要な日光を確保できるというメリットもあり、現在はこの方法を推進しています。

牧柵を設置し、牛を放す　桑園外周に電気牧柵を設置します。パイプハウス鉄管と塩ビパイプを組み合わせた簡易なものを用いたり、桑に木柱用碍子を取り付ければ経費が抑えられます。

上が遊休桑園に放牧直後、下が草地造成後の状態

鉄管は廃材を使っても問題なく、電牧線はポリワイヤーで楽にまわせます。雑草が伸びてくる時期（五月上旬以降）になったら、馴致した牛を二頭以上放し、桑の葉などを食べさせ、蹄耕法により地表を耕起していきます。

除草剤散布・施肥・播種　八月中旬～下旬に牛を牛舎に戻し、雑草を衰退させるためにグリホサート系除草剤を散布します。そして、九月中旬頃に施肥し、播種します。傾斜が急なところでは、おもにマクロシードペレット法を用います。傾斜が緩やかで、株と株の間にトラクタなどを入れられるところでは機械を使います。

牛を転牧し、草地を維持　翌年は五月頃より放牧を開始します。草地を維持するため、草のある五～十一月頃の期間放牧です。二〇ａ程度に牧区を区切り、一牧区当たり二、三頭放牧し、草の量に応じて転牧します。ここまでの造成にかかるコストは、牧柵をまわす面積や播種方法などにより変わりますが、五〇ａを造成する場合、一〇ａ当たり四万～五万円の資材費が必要です。

「楽になった。やってよかった」

白沢地域では平成十七年、放牧を勉強し、助け合う組織「和牛放牧研究会」を農家が中心となって設立しました。研修会の開催や労力の提供によって放牧を推進した結果、実践者は一二名に、桑園での放牧面積は約一五haに増えました。研究会の活動が口コミで広まり、会員も二五名に増えています（平成十九年一月現在）。

マクロシードペレットを用いた播種

実践者に放牧について聞くと「楽になった。やってよかった」という好意的な意見ばかりです。牛の状態も分娩間隔はおおむね一年一産を達成していますし、「足腰が丈夫になり、分娩時の事故が少なくなった」という話も聞きます。「放牧していなかったら、こんなに牛は飼えない」「早く夏にならないかな」「夏場の手間が少なくなったから、米の作付け面積を増やした」などのほか、「牛に何かあると子供たちが教えにきてくれるのですよ」と嬉しそうに語る農家もいました。

地域の人たちからも「以前は網戸に白い糸（桑園の害虫によるもの）がびっしりついていたけれど、最近それがなくなった」「景観がよくなった」と好評です。「うちの桑園も使ってくれ」と土地を貸してくれる人まで現れました。

「年だから」と、放牧を敬遠する農家もいますが、労力がないからこそ放牧する価値があるのです。みなさんも放牧してみませんか？　詳細は福島県農業総合センター畜産研究所のホームページにマニュアルが公開されていますのでご覧ください。

（福島県県北農林事務所安達農業普及所）